大分市立稙田小学校　学力向上プラン（令和６年度９月）

取組番号④

学校教育目標

よく学び、すすんで実践する　心豊かな　たくましい稙田っ子の育成

【生きて働く知識・技能の習得】　基礎・基本が定着した子どもの育成
【思考力・判断力・表現力等の育成】　相手にわかるように表現できる言語能力の育成
【学びに向かう力・人間性等の涵養】　自ら課題を見つけ、主体的に解決しようとする子どもの育成

Ⅰ　児童の状況　《１学期単元末テスト平均　国語 85.1 点　算数 82.5 点》

○学習面に関して（県学テ・全国学テより）

・**４年生では、**国語の全体正答率は 61%（基 65%・活 54%）で目標や市より低かった。特に「書く」領域が 10 点低かった。算数では全体正答率 67%（基 74%・活 56%）で目標は超えたが市よりは活用が低かった。特に変化と関係（割合）やデータの活用（2 種のグラフの関係性）が低かった。理科については、目標や市よりも高く 72%だった。指導書付属の評価テストを活用したのがよかった。

・**５年生では、**国語の正答率（知 70%・活 54%）は目標値や県平均より低かった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」の領域は特に低い。漢字の「書き」や短い作文が苦手である。算数の正答率（知 66%・活 57%）で活用は目標値を達成した。特に「データの活用」領域で折れ線グラフの考察ができなかった。理科は（知 67%・活 53%）でどちらも低かった。「物質・エネルギー」が特に低い。

・**６年生では、**国語の全体正答率は 69%（知 71%・思 67%）で全国と県より高かった。ただ「書く」領域に課題があり、条件に合わせた文章が書けなかった。算数では全体正答率 66%（知 70%・思 61%）で全国・県よりは高かった。どの領域も上回っているが、小数の計算・表やグラフの読み取りが苦手。

○生活面に関して

・児童の 89%が学校を楽しいと感じている。(1 学期より 2%↑)授業中に「わかった」「できた」と感じる児童が 95%である。(2%↑)学習規律を守って真面目に授業にも取り組んでいる 91%（2%↓）

・自分の思いや考えを話すことができる児童は 83%、協働的な学習が好きな児童は 92%(3%↑）である。ペアやグループ活動を多く取り入れており（教職員 96%）充実してきた。

・家庭学習については、児童は 95%取り組めている。(保護者は 86%）理解が不十分な児童には、各担任が適切に支援はしている。(88%)

・学校行事や体験活動については 89%の児童は進んで取り組んでいるが、図書館利用については、進んで読書をしている児童は 70%で課題がある。タブレット端末の授業は楽しいと感じている（95%）

Ⅱ　達成指標

生きて働く知識・技能の習得	・単元末テストの平均 82 点以上 ・「授業がよくわかる」と答える児童が 90%以上
思考力・判断力・表現力等の育成	・話合い活動・グループ活動等の協働的活動が好きな児童 80%以上
学びに向かう力・人間性等の涵養	・問題発見解決能力を生活科や総合的な学習の時間等の探求的な学習で育成し、豊かな感性と郷土愛を持った児童 80%以上

Ⅲ　授業改善のポイント

（１）　学力向上のための校内体制

○授業形態・教材教具の工夫をし、授業力の向上を図る。（板書とノートの一体化）（チームによる教材研究）
○「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を位置付けた１時間完結型授業。(誰もが向き合える「課題」、学びに生かせる「振り返り」、「課題」の焦点化、「課題」と「まとめ」・「めあて」と「振り返り」の一体化)
○ペアトークや小グループ討議で、自分の考えを伝え合う場を授業の中に設定する。(発言しやすい雰囲気つくり)
○「稙田小スタンダード（低学年・高学年)」(学習規律)の共通理解と実践の徹底を図る。
○学力保障の立場から校内研修で取り組む人権教育の役割を重視して、組織的な取組を進めていく。
○ＩＣＴ機器を活用した授業実践を推進する。
○実態に合った授業形態及び個別指導を行い、Ｃ層の子どもたちの平均点を５点上げる。

（２）　学力向上対策

○対話（話す・聞く）を意識した授業づくり
　・結論に至るまでの過程を重視した授業づくり
　・思考ツールの活用（考えの視覚化）
　・ＩＣＴの活用（考えの視覚化）
　・話合いのルールづくり（進め方）
　・人間関係づくりプログラムの活用を進める
○授業に必ず「書く活動」を取り入れる。
　・ワークシートの工夫・条件付き作文練習
○図書室を活用した授業実践や読書の推進
　・家庭学習では週に１日は読書を取り入れる。
　・図書館利用を推進するための図書館支援員の活用
○基礎・基本の定着に向けた朝の活動の効果的運用
　・チャレンジタイム＜毎週金曜日に国・算交互に＞
○小中一貫教育の推進（中学校までの系統性を意識した授業の展開）
○補充指導・個別指導の充実（特に算数）
　・休み時間、放課後等の補充指導や個別指導
　・「補助教員」の人材の活用

（３）学校・家庭・地域と連携した「協働」の取組

○家庭学習時間の確保、学年×１０分以上、実態に応じた家庭学習内容の充実
（家庭学習のてびきを示し保護者への啓発を行う）
（各家庭で丸つけ＜解答をつける＞をしてもらう）
○基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）を確立することで授業への集中力を高める。
○「共育」のための情報発信をする。(学校便り・学年通信等)
○地域教材・地域人材の活用、地域に出かける活動を多く取り入れて郷土を知り、郷土愛を育てる。
○日記を書く習慣をつける。(３～６年共通の【生活ノート】活用する。題の指定や漢字を使用させる。)
○学習用具の準備を習慣化する。(生活ノートに日課表や持ち物をきちんと書きチェックする習慣付け。)